

知事と沖永良部の未来を語る会

伊藤祐一郎県知事と島内のさまざまな分野で活躍している若手の皆さんが、自身に取り組んでいる事業の現状や将来について語り合う「知事と沖永良部の未来を語る会」が、9月6日、和泊町長浜館で開催されました。

知名町からは、末山義則さん、西常元さん、東和美さん、東進一郎さん、久本和秀さんの5名が参加しました。そのうち東和美さんは、「沖永良部の鍾乳洞と観光」と題し、本町に多数ある鍾乳洞を観光資源として、ケイビング（洞窟探検）を商品化するために、沖永良部ケイビング協会を発足させたことやその後の課題や問題点について意見を述べました。そのほか、末山さんは「桑の葉の商品化と販路拡大」、西さんは「沖永良部の自然を生かした高級リゾート老人ホームの建設」、東進一郎さんは「ダイビングの商品力を高め価値をアピールした商品づくりにより、高い旅費を言い訳にしない集客・観光客誘致の取り組み」、久本さんは「TPP交渉」について、それぞれ知事と意見交換を行いました。



おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな自主文化事業

町制施行65周年記念事業

自主制作オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』

8月21日(日)、あしびの郷・ちなで奄美初の自主制作オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」が上演されました。初のオペラ全幕上演で沖永良部島在住のキャストや合唱団、スタッフが一体となりモーツァルトのオペラブッフア（喜劇オペラ）の代表作を日本語訳で熱演しました。そして、オペラの終演後には幾度となくカーテンコールが続き、客席は感動と熱気に包まれていました。

また、本公演前日には芸術鑑賞をする機会が少ない島内の児童生徒を対象にゲネプロ（本番同様の練習）無料鑑賞会が行われました。

このオペラはキャストの青年役を務めた、沖永良部高校校長で黒貫字出身の高風勝治さんが母校に初赴任したのをきっかけに、3年がかりで準備を進めてきました。この公演では高風さんの友人である東京音楽大学講師の坂本和彦さんが指揮者を務め、東京音楽大学室内オーケストラの学生16人による生演奏により上演されました。



右端が高風さん

百合の花でつなぐ"あしび芸術祭"

8月27日(土)、28日(日)の2日間、あしびの郷・ちなで百合の花でつなぐ"あしび芸術祭"が開催されました。

27日は、鹿屋市と国分市の高校生を中心とした高校生ミュージカル"ヒメとヒコ"が上演されました。当日は、台風の影響により時間を変更しての上演となりましたが、多くの町民が来場しました。



高校生ミュージカル"ヒメとヒコ"



島民創作ミュージカル"えらぶ百合物語"

28日の島民創作ミュージカル"えらぶ百合物語"は、今年1月に上演したところ、再演を望む声が相次ぎ公募して集まった児童生徒を中心に5か月の練習を積み重ねてきました。2作品とも鹿屋在住の演出家松永太郎さんの作品で、昨年度からキャスト同士の交流を続け互いに刺激しあってきました。

オペラとミュージカルが上演された3日間で、延べ1,200人余りがあしびの郷・ちなに来場し、町制施行65周年記念にふさわしく、おきえらぶ文化ホールあしびの郷・ちな自主文化事業は、大成功のうちに幕を閉じました。